

特集 特捜！そこが知りたい

水没MAP&ネット事情

ヤンゴンで生活し始めると気になる、ニュースの内容や街の変化。日本の日常生活では問題にならなかった、リアルタイムに的確な情報を確保できない現実……。そこで弊社ミャンジャポ編集部がテーマを絞って緊急取材した。

<そこが知りたい1> 独自調査！水没MAP

日本に比べ、大地震のリスクは少ないヤンゴン。だが、雨季に1つ忘れてはならない重大な自然災害がある。集中豪雨による浸水だ。その危険性をレポートしたい。

ミャンジャポ編集部が危機感を強める背景には、ヤンゴン発展による水質汚染と、想定外の豪雨に対する情報のなさ、急増する日本人滞在者がまだ雨季の生活対策に慣れてない点、が挙げられる。パッと今回のマップを見て「ウチはヤンキン地区だから大丈夫」などと短絡的に考えてはならない。当然、移動時に起こる場合や、今後の工事状況で浸水地域や被害規模は大きく変わる。

駐在歴の長い人にとっては記憶にまだ新しい、ヤンゴンと周辺を襲った史上最悪の自然災害と言われている2008年5月のサイクロン「ナルグス」では、台風とともに河川の氾濫など大災害が発生し、ミャンマー全土で約14万人に及ぶ死亡・行方不明者を出す甚大な被害を受けた。また、2011年10月のサイクロンの影響による豪雨で、ミャンマー中部で大規模な洪水被害が発生し、現地の報道によれば約300人の死者を確認した。

再びヤンゴンが、同様の被害に見舞われたらどうなるのか。雨季の激しい雨を窓から眺めながら今回、危険地域



取材協力：恐れ入谷のミャンマー人 <http://www.blogmura.com/profile/00965142.html>

マップを作成した。よく起こる豪雨の場合、場所によっては膝まで水に浸かって歩く（一般的な大人で、だいたい

0.8mは腰辺り、0.5mで膝上辺り）。犬にいたっては、胸まで水に浸かってしまう。雨は一瞬のことが多く、おさまれば水も早めに引いていくのだが、雨量によっては直後が大変な事態になる。

なかでも危険性が高いとみられているのがレーダン北部と、オッチン&タマイ地区の一部である。周辺に住むミャンマー人やタクシー運転手は、雨天時に警戒している。マップを見て気づくのは、日本のように海や河川が近



くになれば安全かといえば、決してそうではない。普段は気づかないが、周囲より地形が低く、水が集まって浸水しやすい道もある、と聞く。駐在経験の長い日本人は「集中豪雨ではゴミで分水路が詰まってしまうことも十分ある」という。またダウンタウン 34st に住む 20 代のある日本人は「雨が降ると下水道から水はあふれるし、外に出たくない」と嘆く。

その時の判断が生死を左右する可能性も

ここで注意が必要なのは、前述 2008 年や 2011 年の浸水等による被害では、実際に死者が出ていること。また水没した地域に電気やガス、水道などのインフラの拠点があると、ライフラインに大きな影響が出る。さらに、警戒しなければならぬのが衛生面だ。海外の被災時は、マラリアなどの感染症が必ず流行している。在ミャンマー日本国大使館の担当者は「浸水時にあふれる下水と、台風時期には注意してほしい。2008 年のサイクロン時には、スタッフ総出で街に出て被害状況を確認しながら、日本人登録者全員の自宅まで足を運び安否確認をした」と言う。

では、凄まじい勢いで雨が降り始めたら、どのような行動を取るべきか。基本的に日本では自治体から出る避難指示に従うべきだが、ここは海外・ヤンゴン。早めの自己判断も重要になる。「海外でも例えばアメリカでは、危険ゾーンなどを国から公表するが、この国はまだ体制がない。緊急時は大使館から在留邦人向けの注意喚起メール（※1）を出しているが、予防が大事。日本と同じ感覚を持って各個人が防災してほしい」と同大使館担当者は語る。近年、増え続ける日本人のヤンゴン生活を襲うかもしれない豪雨。最悪の事態にならぬよう、その備えは各自行いたいところだ。

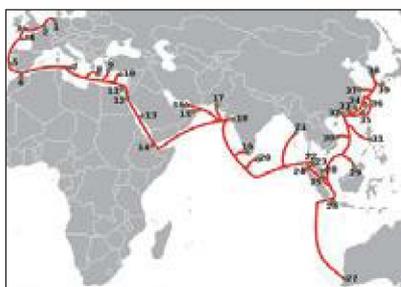
※1：在留届を出した場合に適用
災害や事故などが発生した場合、大使館は在留届の情報をもとに身元確認や日本の家族などへの連絡を行う。そのため、できるだけ早くに必ず届け出たい。外務省ホームページからも登録・提出できる。

<そこが知りたい2> どうなの? ネット事情

今年 7 月 22 日、ミャンマーと海外をつなぐ『SEA-ME-WE 3 水中ファイバーケーブル』の切断によって、インターネット速度が半分まで落ちた。「原因はミャンマー海底にある可能性が高い。水中での問題ならば、少なくとも完全復旧には相当な時間がかかる」と担当者は語った。SEA-ME-WE 3 回線は以前、一昨年 10 月中旬にもミャンマーで不具合が生じ、その期間にネット回線が数カ月遅くなり、多くの企業が損害を被った。

10日後

今年 7 月 22 日から悪化していたインターネット速度は、同月 31 日 17 時に復旧した、とミャンマー情報省が明らかにした。ネットの伝送速度はこの 10 日間ほど 5・5 GB だったが、現在は以前と同じ 11・5 GB に戻った。今回、切断された 500 m のケーブルを除去し、新しく交換した。同ケーブルはミャンマーを含め、ヨーロッパやアジア諸国を中心に 34 カ国を結んでいる。ミャンマーではエンヤワディー管区のピャボン市から 134.3 km の地に、海底ケーブルをつなぐ線がある。「政府紙」



ヨーロッパやアジア諸国を中心に 34 カ国を結ぶ『SEA-ME-WE 3 水中ファイバーケーブル』

今回の一件は、日本では知る人も少ないようだが、ミャンマー現地のどの企業も頭を悩ませた。では、今のネット事情はどうなっているか。まず、現在ミャンマーでは数種類のネットへの接続方法がある。なかでも駐在する日本人がよく使うのはインターネットプロバイダーの利用で、主に 2 つ「RED LINK」と「Yatanarpon Tereport」。かつて軍政下ではインターネットは規制され、閲覧できないページも多かったと聞かすが、現在はかなりゆるくなり、ネット速度も年々速くなっている。

他の方法として、ミャンマー在住の日本人も使う一流ホテルでの Wi-Fi 利用は、法人の高速インターネットプランを使い、回線も多く備えるなど整えていることから、Wi-Fi 速度は速いが、使用するにはパスワードが必要で、宿泊者やホテルのコーヒショップなどを利用した場合しか使えず、毎回コストがかかる。しかし、例えば昨年 11 月にミャンマー

へ進出した通信機器レンタル企業・テレコムスクエアでは、中短期の出張者をメインに Wi-Fi ルーターや携帯電話のレンタル通信サービスを行う。短期出張者への一日単位でのレンタルや、中期出張者や駐在者向けの長期レンタルプランも提供している。同社の石田奈帆美さんは「車の移動時でもよくインターネットを使うビジネスマンに、気軽に活用してもらいたい」という。

なお、ミャンジャポ編集部では「RED LINK」と地域の特別インターネット回線を併用している。ミャンマー人スタッフ曰く、「ミャンマーでは今までも何度か通信障害になり、復旧まで 1 カ月という政府の発表が、結局完全復旧まで数カ月かかったこともあった」という。今回はめずらしく早く解決されたケースなのだろう。が、しかし、本文をまとめた後にミャンマー海底ケーブルにトラブルがあったようで、再びネットが遅くなった……。

新しいミャンマーになるに従い、各種インフラは着実に整備されていくのか。変貌を遂げる“生”の現地情報、今後も常に発信していきたい。

